

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」記録



一色地区

平成29年8月3日（木） 午後6時30分から

一色地域交流センター〔ホール〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

出席者等

懇談会の地区代表者	一色南部小校区：有馬健治代表町内会長
校区代表町内会長	一色西部小校区：鈴木正實代表町内会長 一色中部小校区：鈴木雅雄代表町内会長 一色東部小校区：粕谷數直代表町内会長
地区関係市議会議員	前田修議員、松井晋一郎議員、本郷照代議員、磯部雅弘議員、藤井基夫議員
市関係者	中村市長、小島副市長、増山副市長、尾崎教育長、長島企画部長、宮地企画部次長、高原総務部次長、長谷資産経営戦略局長、近藤危機管理局长、山崎健康福祉部長、青山子ども部長、山崎地域振興部次長、金原産業部長、永谷環境部長、渡邊建設部長、市川上下水道部長、尾崎市民病院事務部長、新實教育部次長、太田消防長、河原一色支所長 事務局：細田秘書課長、岩瀬秘書課長補佐ほか3名
出席者数	市民145人、地区関係市議会議員5人、市関係者25人、報道関係者3人
事前意見・質問等	整理区分6件 内訳：意見2、質問3、要望1
自由意見等	整理区分14件 内訳：意見9、質問3、要望2

平成 29 年度「市長と語る市政懇談会」（一色地区）

○細田秘書課長

皆さん、こんばんは。

私は、この懇談会の事務局を務めます秘書課長の細田でございます。

よろしく願いいたします。

なお、本日は出席者がクールビズの推奨によりノーネクタイ、軽装でありますこと、また特産品やイベントのPRポロシャツを着用しておりますことをご了承ください。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会（一色地区）」を開会いたします。

初めに、本日の出席者をご紹介します。この懇談会の開催に当たり、多大なるご協力を賜りました一色地区の代表町内会長の皆様で、一色南部小校区の有馬健治様、一色西部小校区の鈴木正實様、一色中部小校区の鈴木雅雄様、一色東部小校区の粕谷數直様でございます。

また、市議会からは、前田修議員、松井晋一郎議員、本郷照代議員、磯部雅弘議員、藤井基夫議員にご出席いただいております。また、山田高生県議にもご出席いただいております。

そして、市からは、中村市長を始め、小島副市長、増山副市長、尾崎教育長、そして関係部局の部長、部次長が出席しております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の予定をご案内いたします。

この後、15分ほどのお時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、一色地区から事前にお伝えいただきましたご意見やご質問などに対し、市から回答をさせていただきます。

また、これら地区の取りまとめのご意見等とは別に、参加者の皆様から広くご意見などをお聞きします自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対するご提案やご意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言いただきたいと思います。

なお、記録用としまして、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきますことをご了承ください。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

○中村市長

皆さん、こんばんは。市長の中村でございます。日ごろは、市政全般におきましてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

また、本日は、本年度第1回目となりますが、市政懇談会を開催しましたところ、こんなに多くの方々に、多分100名を超えるのではないかと思います。ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

この市政懇談会というのは、2年に1度行っているものでありまして、各中学校区で皆様方のご意見、ご要望をお伺いして、それに対して市としての回答を差し上げるものでありますが、この場に直接来ていただいて、顔を合わせてしゃべるといふことの意味というのは、しっかりと考えた中で運営をしてまいりたいというように考えております。

要は、内容でやりとりするだけであれば、郵便とかファックスでやればいだけであって、皆様方がここに一堂に会することの意味というのは、こちら側の思いですとか、市政に対する姿勢なども含めて、皆様方にできる限り、伝えるだけではなくて、伝わるような形で進行してまいりたいというように考えておりますので、ご理解いただければと思います。

さて、1市3町が合併をいたしました西尾市は、それぞれの地域ごとに特色ある歴史と伝統文化がありまして、地域資源が豊富な場所になりました。しかしながら、正直行政課題というのは山積しておりまして、思い切った行財政改革に取り組む必要があると考えております。財政が逼迫しておりまして、将来の見通しがなかなか描けない時代だからこそ、市政運営に対しては皆様方のご理解とご協力というものが不可欠になってまいります。そうした中で、私自身においては、まずは徹底した情報公開と市民参加を進めることで、行政の透明度を上げることと、また市民参加、日本一の西尾市政を目指してまいりたいと考えております。そして、皆様方と直接顔を合わせて話をさせていただけるような、こういった対話のほうも大事にしていきながら、市民目線で市政改革を進めてまいりたいと考えています。

それと、せっかくですので、一色地区におけるタイムリーな話題を、2つ、3つ、ちょっとご紹介をさせていただければというように思います。「愛知を食べる学校給食の日」というものがございまして、6月19日と20日の2日間で、西尾市内にあります全36小中学校の給食に、一色産ウナギを使ったひつまぶしが提供されました。

そして、もう1つは、尾上部屋の力士が園児と交流を図っていただきました。これは7月4日になりますが、一色町に宿舎を構えました尾上部屋の力士4人の方々が、市内の熊味保育園を訪れていただいて園児と交流をしました。また、一色南部保育園、一色西部保育園、高須ケアガーデンなどを訪問していただいて、にぎやかな交流となりました。

そして、最後になりますが、8月5日、あさつてになりますが、碧南市で、愛知県消防操法大会が行われます。そちらに一色消防団が西尾市を代表して出場されますので、ぜひともお時間のある方は、応援に駆けつけていただきたいと思えます。ちなみに、碧南市の港南町というところの2号地多目的グラウンドで、9時57分からの予定となっております。

地域の話題としては以上になりますが、せっかく時間をいただいておりますので、ここから少し、私自身の市政運営についてお話をさせていただきたいと思えます。

私自身が市長に就任させていただいたのは7月5日ですので、もうすぐ1か月が経とうとしております。そして、7月14日に市議会の臨時会というものが開催されまして、その中で所信表明というものをいたしました。この所信表明というのは、4年間の市政運営のかじ取りをどのような方向性でしていくかということについて、自分自身の考えや思いを述べるものでありまして、そちらの内容を紹介させていただきながら、この場で考えをお伝えしたいと思えます。

幾つか考えの柱があるのですが、一番大事にしている1つ目の柱というのが、市民主役のまちづくりであります。よく市民主役というのは、どこのまちでも言うのですが、なかなかそれを仕組みとして根づかせるというのは難しいというのがあります。ですが、自分自身が市長選挙を戦っている中で、私は三和という地区に住んでいるのですが、市長選挙ということで、市内各所いろいろ回らせていただきました。特にこの一色、吉良、幡豆地区を回っていて、住民の方々からいろいろご意見をお聞きする中で強く感じたことというのは、市役所の職員が皆様方にとって、特に合併後、遠い存在になってしまったのかなというような認識をすごく持ちました。今までであれば気楽に役場の職員と話ができたりとか、困り事なども気楽に相談できたのが、少し距離が遠くなってしまったり、何か連絡事項が上からおりてくるような感じで、なかなか自分たちと市役所との距離がどうしても遠いと。もう少し身近で気軽に相談できる、そして頼れる市役所にしてほしいというそういった声が、私の中では一番耳にいたしました。

具体的には、まずは情報公開が一番大事だと思っております。今、西尾市がこういうことをやっていますとか、市民の皆様方にこういうことをお伝えしたいといった情報公開を積極的に進めることが1つと、あとは、こういった場所に来てい

ただ、市民の皆さんからご意見やご要望をお伺いすることとは別に、市政にはそこそこ関心を持っているのだけれども、わざわざどこかに行ってまで意見を伝える気持ちにはなれないという方も実際にいろいろお住まいなのですけれども、そういった方々についても、市政に対してご意見をいただけるような仕組みをつくっていききたいと思っています。

例えば何かテーマを絞って、観光について市が政策をつくる時に、無作為抽出というのですけれども、要は特定の人を指名しない形で、今回、郵送でこういうことをやるのですけれども一緒に参加していただけませんとか、そういった形で、いわゆる政治的にいう、声なき声を聞くというところになります。そうした、少しでも多くの市民の皆さんの声を実際にお聞かせいただきながら、それを市政運営に反映してきたいというのが1つであります。

それと、市民主役のまちづくりの中で、もう1つ私がお伝えしたいのは、近年、この西尾市に限ったことではないのですが、地域のコミュニティの力というのが落ちてきています。ご近所関係が結構疎遠になってしまったり、核家族化が進んだりして、地域の中でのコミュニティの力が落ちてきていると私は認識しているのですけれども、実際に、例えば子どもの安全の見守り活動についてもそうだし、何か防災とか防犯とか、そういう活動をしていても、地域の力があるかどうかによって、二次的な被害をいかに抑えられるかということが変わってくると思いますし、子どもたちや高齢の方々が安心して暮らすためには、やはり地域の目というのはすごく大事だと思っています。そうした中で、時代的にはどんどんコミュニティの力が落ちてくる流れではあるのですけれども、それを何とか食い止めて、地域でしっかりと地域の魅力をもう1回掘り起こして、地域で子どもを育てて、地域で人を見ていこうという、そういった機運を高めていききたいように思っています。ですので、地域コミュニティの力を取り戻すための活動については、市としても積極的にご支援をしていききたいというのはございます。

以上が、市民主役のまちづくりの部分になります。

そして、2点目は、少子高齢化と人口減少への対応になります。この少子高齢化と人口減少というのは、日本全体が抱える問題であります。西尾市全体で見れば、人口はほぼ横ばいということで、ほかの北海道とか九州とかの地域に比べれば、まだまだ人口の減少というのは、それほど深刻ではないのですが、ただ実際でも、西尾市内においても地域的に差があって、一色のほうというのは正直、人口が減少傾向にあるのかと思います。そうした中で、では、それをどう克服していけばいいのかということになります。政治の世界では、よく地方創生という言葉が聞きます。この地方創生というのは何が言いたいかというと、横並び意識のまちづくりをやっていくのではなくて、もう1回自分たちが住んでいるまちの魅力を自分たちで再確認をして、それを生かしたまちづくりをしていこうというところに醍醐味があります。そうした傾向を踏まえる中で、どのまちも人口減少を防ぐために、少しでも多く人に外から移り住んでほしいとか、子どもがたくさん産めるような社会にしたいということで、各種の政策を打っているのですけれども、西尾市において、自分自身が選挙の中で掲げました公約との関連の中で申し上げますと、観点については、住みたいまちの観点と、働くことのできるまちの観点と、訪れたいまちという観点について、所信表明では述べさせていただきました。1つ目の住みたいまちの観点については、いわゆる子育て世代という、30代、40代をしっかりと支援して、一番税金を払ってもらうこの世代に西尾市への定住促進を図ることと、あとは、今いる西尾市民の方々が安心して子どもを産めるような社会をつくっていききたいというところが柱になります。具体的な政策といたしましては、不妊治療費の助成の拡充ですとか、病児保育の充実ですとか、そうした、いわゆる出産から子育てまでというところを、切れ目なく、きめ細かに支援をしていけるような、そういった環境をつくっていききたいと考えています。

それと、もう1つは、これについては、今回の一色地区のご要望でも出ていま

すが、現在の西尾市というのは、合併して市の面積自体は大変広くなりましたが、公共交通が不便な面というのがたくさんございます。一色にお住まいの皆様方も非常に実感している方が多いのではないかと思います。今後、社会の高齢化が進んでいく中で、例えば全国的なニュースなどを見ていると、お歳をとった方は、早く免許を返納して、あまり車に乗るべきではないというような風潮もあるのですけれども、では、実際にこの西尾とかこの一色の地区に住んでいて、免許を返納して日々の生活に困るのではないかと、すごく大きな影響があると思うのです。そうした中で、公としての公共交通の機能をどう役割を果たしていくかというのは、すごく重要な問題であると思っております。この一色地区においては、10月からくるりんバスがいっちゃんバスという名称に決まったのですが、実はくるりんバスが新しく開設されるということで方向が進んでいるのですが、では、バスが通ればこれで全て解決するかといえ、そういった簡単な問題でもありませんし、西尾市全体としても、公共交通の体系をどうつくって、少しでもそういった公共交通の面で困る方が1人でも減るような形で、今後つくっていけばいいかというのは、ちょっと今、時間をいただきながら調査研究をしているところで、少しお時間をいただいて、その辺の体系自体の見直しをしていきたいというように考えております。

そして、2つ目の、働くことのできるまちですが、これについては、産業の競争力を強化して、あとは安定した雇用を生み出すということが大事だと思っております。西尾市を含む西三河地区というのは、イメージとしてはものづくりのまち、自動車関係の恩恵を受けるまちというイメージが強いかなと思っております。

そうした部分から、ものづくりを支援していくということは、やっていくべき話だと思うのですが、その一方で、この西尾市というのは一次産業も大変盛んな地域だと思います。漁業とか農業とか畜産業とかになるんですが、現在、アサリが非常に壊滅的な状況に陥っています。漁業会ともいろいろご相談させていただきながら、行政としてどのような支援が一番いいかということを考えて、しっかりと産業が衰退しないような形で、こちらとしてもサポートさせていただきたいと思っております。アサリについても、まだ明確な原因が特定できていないということで、これが効果があるのではないかと、県ですとか漁業会と相談しながら、一つ一つ対策を打っていく中で、今の壊滅的な状況を何とか食い止めて、漁師の皆さんが再びアサリの漁で生計が立てられるような形で、もう1回復活できるような形にしたいと思っております。

それ以外のことについても、ウナギを始めとして、特にこの一色地区というのは漁業が盛んですので、どうしてもものづくりに目が行きがちではありますが、しっかりと一次産業についても、市としても守るべきものは守りながら、伸ばすべきものは伸ばしていきながらという形で支援をさせていただきたいと考えております。

3つ目の観点として、観光交流企業というものを強化して、いわゆる交流人口というものを増加させていきたいというように考えています。合併後の西尾市については、一色のウナギですとか、西尾の抹茶を始めとして、日本を代表するような名産地を誇る特産物ですとか、あと吉良に行けば温泉はありますし、自然も豊富に残っています。また、城下町としての歴史もたくさん残っておりますし、そうした観光資源というものの数自体はたくさんあります。それをしっかりと観光の資源として磨き上げていく中で、やはり市内自治会の皆さんから西尾市の魅力を再発見していただいて、少しでも西尾に観光に訪れていただきたいというように考えています。

具体的には、西尾市観光協会という法人がございまして、そちらを中心として、観光的なPR活動ですとか、あとはツアーとか団体客の誘致などについても、これまでも積極的に取り組んではいたのですが、これまで以上に積極的な活動を行っていくことで、犬山市とか蒲郡市などに負けないだけの県内一の観光地を目指

していきたいというように考えています。

そして3点目、最後なんです、所信表明の中で、徹底した行財政改革というものについてお話をさせていただきました。現在西尾市の負債というものが、大体約550億円あります。その中で、本年度から、国からもらえる地方交付税というものがありますが、段階的に縮減、要は減らされていきます。5年後には、今よりも使えるお金が二十数億円減ってしまいます。二十数億円使えるお金が減るというのは、正直大変大きな影響を受けます。ですので、1つには、先ほど申し上げたように、観光によって人にたくさん来ていただいてお金を落とさせていただくとか、あとは企業をたくさん誘致して税収を増やすとか、あとはふるさと納税などに力を入れて、まずは稼ぐこともしっかりやっけていかないといけないのですが、その反面で、出るお金を減らすということも大切になってきます。そのような中で、これまでなかなかしっかりと取り組めなかった部分についても、そこは行財政改革ということで、ときには痛みを耐えていただかないといけない部分もあるかもしれませんが、そこはしっかりと行政として情報を公開した上で、現在こういう状況ですので、こういった形でやらせていただきたいと思いますというところはしっかりと説明をしながら、市民の皆様方と一緒にこれからの西尾市のことを考えながら、改革に取り組んでまいりたいというように考えていますので、ご理解とご協力をぜひお願いしたいと思います。

私自身、選挙の中で、未来につけを回さない政治を行いたいということは、ずっと唱えてまいりました。当然、今ある行政サービスで、必要なものについては、しっかりとやっけてまいります。その反面で、今だけがよくて、これから生まれてくる子どもたちにつけを回すような政治はしたくないという考えがあるのも事実であります。市役所としても、行政といたしましても、しっかりと一丸となって、これから西尾市が今以上に暮らしやすいまちになるように取り組んでまいるのはもちろんでございますが、皆様方にもチーム西尾市の一員として、お知恵とお力をお借りしながら市政運営に当たってまいりたいというように考えております。

そして、具体的な政策の中で、今回の市長選挙において、私自身が西尾市方式PFI事業の見直しと産業廃棄物最終処分場の建設への反対についても、公約として訴えてまいりました。産廃処分場のことについては、今回の市政懇談会でご意見をいただいておりますので、そちらの中でお答えをさせていただきたいと思います。

もう1つの、西尾市方式PFI事業というものについてですが、全体についてちょっとお話をする時間がないので、この場を借りて少し皆様方にご意見を聞きたいというか、ちょっと手を挙げていただきたいのですけれども、一色支所がどうやら取り壊されることになっているというのをご存じの方はいらっしゃいますでしょうか。

(挙手)

ありがとうございます。おろしてください。具体的にその理由といたしまして、支所のコンクリートの途中というか要はコンクリートが腐ってしまっていて、その老朽化によって、もうこれ以上延ばすことができないという理由で取り壊すということになっていきますというか、そういうことで取り壊す予定なんです、僕は一色の方々に聞いていると、どうして耐震工事をしたのに、今さらまた壊す必要があるのかというようにお聞きをしています。そこについては、正直、市も説明が足りない部分もあるのではないかと認識をしています。もう1回お伝えさせていただきたいと思いますが、地震に耐えられるか、耐えられないかではなくて、もうコンクリートの耐用年数として持たないから一色支所を取り壊すことになっていきますという、その具体的な理由までご存じの方がいらっしゃれば手を挙げてもらえますか。

(挙手)

ありがとうございました。

そうしますと、一色支所を取り壊すこと自体については、9割方の方々に手を挙げていただきましたが、具体的に理由についてご存じの方は、大体1割から2割ぐらいの方と思います。こちらについては、当初の予定ですと、9月半ばから取り壊す予定になっております。ですが、私自身は、特に一色の方々が理由もわからないのに取り壊されてしまうというのは、民主政治を進める上で望ましくないというか、こういったやり方はできれば避けたいというように考えています。

選挙の中で、全面的な見直しと凍結ということ掲げております。今後、議会にもしっかりと説明をさせていただきながら、民間事業者に対して、まずは一旦事業をとめてくれということをお願いをしていきます。まずはとめなければ、立ちどまってもう1回考え直すことができません。一旦とめることができれば、そこで立ちどまって、例えば個々の支所を本当に改善する必要があるのかどうか、市営住宅が必要なのかとか、プールをつくる必要があるのかとか、たくさん考えるところはあるのですが、これまで市民の方々が不在な中で、正直スケジュールがありきで進められてしまった感は否めないと考えています。ですので、こちらについては、一旦立ちどまった上で、皆様方のご意見をお聞きして、一緒に考えながら結論を出してまいりたいと思いますので、そちらについても、ご理解とご協力をいただければと思います。

また、本日の市政懇談会でも、用意されたご意見、ご要望が終わった後に自由意見交換もありますので、忌憚のないご意見、ご要望をいただければと思います。

市政運営については以上となりますので、この後は、事前にいただいたご意見、ご要望等に対して回答させていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○細田秘書課長

ただいま市長からお話のありました、市政運営に関してご意見、ご質問などのある方は、後ほど設けております自由意見交換のお時間でご発言をいただければと思います。

次に、一色地区から事前に提出いただきましたご意見やご質問などについて、市から回答をさせていただきます。ここからは、今回の懇談会で一色地区の代表者としてお力添えをいただいております、一色南部小校区の有馬会長に進行をお願いいたします。本来ならば、市の主催ということで、市の職員が司会進行を務めるところでございますが、この懇談会では、堅苦しくなく、活発なご意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存じの町内会長様に進行役をお願いしております。

それでは、有馬会長、お願いいたします。

○司会（有馬会長）

皆さん、改めましてこんばんは。一色南部小校区代表町内会の有馬でございます。

皆様におかれましては、日ごろから町内会活動を始め、各分野でまちづくりにご尽力を賜り、また本日は懇談会にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

さて、本日は、市長を始め、市役所幹部の皆さんに直接声を届けることができるよい機会であります。限られた時間ではありますが、一色地区、さらには西尾市を住みよいまちにしていくため、有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは、ご指名を受けましたので、ここからは私が進行を務めさせていただきます。進行にご協力をお願いいたします。

初めに、一色地区から事前にお伝えした意見や質問などに対して、市から回答

をいただきます。限られた時間で効果的に懇談会を進めるため、あらかじめ6件の意見をお伝えしてあります。これらについては、ご意見等を提出された町内会の方などに内容を読み上げていただきます。

その前に、この事前質問の説明を少しさせていただきます。

5月上旬に、市のほうから今回の懇談会に対する事前質問の要請がございました。そこで、一色地区29の町内会長に事前質問という形で提出をお願いいたしました。5月31日に臨時の全員協議会の会議を開きまして、その中で重複とかそれから校区等のバランスを勘案しまして、6件の意見に集約させていただきました。それを6月5日に市のほうに提出しました。それが今から始まる事前質問でありますので、ご承知いただきたいと思います。

なお、市からの回答に対しての再度のご意見やご質問は、全ての回答があった後にお聞きしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1件目を、細川町内会副会長の宮地様、お願いいたします。

○細川町内会（宮地副会長）

細川町内会副会長の宮地です。このようなところで発言するのはなれておりませんので、よろしくお願いします。

それでは、1件目の海岸堤防の耐震化について、質問させていただきます。

市政世論調査では、「南海トラフ地震に関心があるか」との問いに対し、約90パーセントの方が「関心がある」と回答されていると聞いております。地震等の災害対策については、ソフト面とハード面の両輪が揃って減災につながりますが、今回はハード面の点について、お尋ねします。

海拔ゼロメートル地帯が広がる一色地区では、多くの海岸堤防を愛知県が管理していると聞いておりますが、今後どのような予算でどのような手法で整備を進めていくのか、また、西尾市は、愛知県や国に対して、積極的に事業を推し進めるためにどのような働きかけを行うのか、以上3点について、お願いします。

○司会（有馬会長）

それでは、お願いいたします。

○中村市長

ご質問いただきまして、ありがとうございます。

1件目の海岸堤防の耐震化についてでございますが、こちらについて、愛知県に確認をいたしましたので、その回答をそのまま読み上げさせていただきますと思います。

「海岸堤防の地震津波対策として、平成26年に第3次あいち地震対策アクションプランを策定し、この中で、西尾海岸中根地区、一色漁港海岸、衣浦港海岸平坂地区などを耐震対策箇所位置づけ、計画的に対策を進めているところです。特に西尾地区沿岸部のゼロメートル地帯においては、地震直後に浸水が始まり、住民の避難時間の確保が困難な区域があることから、優先的に対策を進めております。具体的に今年度は、西尾海岸中根地区、一色漁港海岸、一色海岸細川地区、平坂防潮樋門の耐震対策を交付金事業で実施します。今後も、地震津波対策について、このアクションプランに基づき対策を進めてまいります」という回答がありました。管理者の愛知県に対しましては、市といたしましても、私自身も出向きまして要望活動を行う予定でありまして、具体的には8月22日に県に対して要望活動を行う予定でありますので、その中でも重ねて要望をしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

次に2件目を、治明北部町内会長の山田様、お願いいたします。

○治明北部町内会（山田会長）

こんばんは。

治明北部町内会長の山田と申します。

先ほども市長からお話があったと思いますが、一色地区でくるりんバスが10月から運行されるそうですが、停留所となる場所の準備等はどのようになっているのでしょうか。質問させていただきます。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

2件目のくるりんバス停留所の準備についてのご質問でございますけれども、まず一色地区におかれましては、町内会長の皆様方ですとか、また民生委員、児童委員の皆様方によって、一色地区内の公共交通の在り方を考えるために、協議会というものを平成26年12月に立ち上げていただきました。そして、二十数回だと思っておりますけれども、協議を重ねていただいて、コミュニティバス運行のルート等についても、内容をまとめていただいて、平成28年3月に、市に対して提案をいただいております。具体的な運行ルートですとか停留所の場所等については、地区の皆様方で決定していただいて、名称についても、昨日発表させていただいたのですが、いっちゃんバスという形で、名称ですとか、バス自体のデザインについても、地元の方々に公募していただく中で、応募いただいたもので決定させていただきます。

ご質問のありました停留所の準備についてであります。こちらについては、市と地域で役割を分担することとなっております。具体的には、警察ですとか道路管理者への申請、また標識の設置については、市のほうで行わせていただきます。一方、停留所の隣のお宅への説明ですとか、そういったところについては、地区のほうで行っていただくということで、具体的にその官民協働という形で準備を進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いできればと思います。

以上です。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

次に3件目を、中外沢町内会長の外山様、お願いいたします。

○中外沢町内会（外山会長）

失礼します。小中学校の統廃合ということで、若干の要望を交えながら質問をさせていただきますと思います。

近年の少子化に伴いまして、私の住む中外沢ですけれども、子どもたちの減少が目につきます。資源回収等で通学団の様子を見ていても、私の子どもどものころ、あるいは私の実際に自分の子どもたちが通っていたころと比べますと、随分子どもたちが減ったなという印象を持ちますし、それから子ども会等でもチームができないということを耳にしました。少子化というのは、今後も続くと思っておりますし、学校の統廃合、あるいは校区の見直しというのは必要不可欠であると考えております。しかしながら、先ほど中村市長もおっしゃいましたが、コミュニティの部分、コミュニティが衰退しているというように市長がおっしゃいましたが、コミュニティという観点からすれば、各小学校は地域の、要するにコミュニティの核となる存在であると思っております。そうしたスクールコミュニティという観点からしても、やはり小学校はどのようなコースでいかというように思いますし、要望として、南部小学校だけではないのですけれども、小規模校も

ひ存続させてほしい、このように考えています。ですが、市として、今後どのような形で考えてお見えになるのか。現在の部分で結構ですので、お考えをお聞かせいただければと思います。よろしくお願いします。

○尾崎教育長

失礼いたします。教育長の尾崎でございます。

3件目、小中学校の統廃合についてのご要望でございますが、まず、文部科学省では、学校規模の適正化に関する検討事項の中で、小学校では、クラス同士が切磋琢磨する教育活動や社会性やコミュニケーション能力を高めるために、12学級から18学級を適正規模として示しています。

また一方で、小規模校であることで、一人一人に行き届いた教育が推進でき、地域との密接なつながりを生かした校外学習や体験学習の充実ができること等のメリットがあり、地域のコミュニケーションの核としての学校の存在を図るために、統廃合については、市町村の判断を尊重することとしております。

一色南部小学校の児童数は減少傾向にありますが、今後5年間の入学予定者数を見る限り、現在と同程度の学級規模を維持できると見込んでおります。学校は、児童生徒の教育のための施設だけでなく、先ほど外山様のお話にも、そして、市長の挨拶の中にもありましたように、地域の核としての性格も持っております。小規模校においては、そのよさを生かし、地域に開かれた教育を進めてまいります。したがって、現時点では、一色南部小学校を含め、市内の学校の統廃合は考えておりません。

以上であります。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

次に4件目を、前野南部町内会長の高須様、お願いします。

○前野南部町内会（高須会長）

前野南部町内会長の高須と申します。よろしく申し上げます。

旧名鉄三河一色駅の跡地ですね、その周辺の再開発について、お伺いします。

2004年4月1日に、三河線が廃線になりました。それから13年がたっておりますが、いまだに線路がなくなっただけで、何1つ、駅前三河一色駅ですね。あの周辺は何ら変わっておりません。今後、三河線の廃線と敷地、及び三河一色駅跡地の再開発はどうなっていますか。それから、市では用地買収をする用意はありますでしょうか。また、民間が一部の用地を買収することは可能なのでしょうか。今後どのようにしていく方針ですか。現状も含めてお答えください。よろしく申し上げます。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

名鉄の旧三河一色駅跡地周辺の再開発についてであります。こちらについては、市と名鉄とで、十数年ずっと、継続的に協議をしてまいりました。そして、最終的に市が必要地として名鉄に現在提示しておりますのは、道路及び水路の用地として必要な103カ所でありまして、具体的に三河一色駅跡地で申しますと、南と北に接する道路2カ所だけとなっております。同駅跡地で、ほかに市が取得ですとか開発をする予定は、現在のところはございませんので、何とかご理解をいただきたいと思っております。

また、現在、名鉄が三河線廃線敷地の用地確定測量というものを行っております。今後、市が必要としております箇所を取得に向けて、用地の価格交渉等を行っていく予定であります。

また、ご質問いただきました民間の売却等についてであります。名鉄からは、市が必要としている箇所以外については、民間への売却を検討するとの話をお聞きしておりますので、民間が買収する可能性もあるものと思われま。ご理解をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

次に5件目を、生田町内会長の川口様、お願ひいたします。

○生田町内会（川口会長）

生田町内会長の川口と申します。お願ひします。

一色地区における新たな産業廃棄物最終処分場計画についてのことなんですけれども、新たな産業廃棄物最終処分場計画に対して、市として反対の意見を出していただき、本当にありがたく思っております。この計画に対しての市としての考えとか、あと、わかっている情報、話していただける情報などがあれば、ぜひとも教えていただきたいと思っております。

よろしくお願ひします。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

一色地区におけます新たな産業廃棄物最終処分場計画についてでございますけれども、南海トラフ巨大地震による津波浸水被害が想定されております本市の沿岸部におきましては、愛知県が平成26年5月に被害想定というものを発表しております。そちらによりますと、海岸堤防は75%が沈下、最大で4メートルの津波が襲い、あわせて液状化の危険性が極めて高いとされております。このような場所に新たに巨大な産業廃棄物処分場が建設された場合については、最終処分場の廃棄物や汚水が流出する危険が伴いまして、この先、数十年にもわたって常に危惧しなければならぬような状況になってしまいます。もし、廃棄物や汚水が三河湾に流出してしまった場合については、本市だけの被害にとどまらず、三河湾全体に拡散をしてしまい、取り返しのつかぬ事態になってしまいます。また、本市を代表いたします水産業ですとか農業、そして、これらに関連する加工業においても、風評被害が発生することが考えられます。海、川、山といった豊かな自然に支えられる西尾市や、豊かな海、三河湾の環境を次世代に引き継いでいくためにも、今後も新たな産業廃棄物処分場の建設には反対をしております。

なお、現在までに正式な申請は出されておられませんので、今後においても、許可権者であります愛知県に対して、引き続き反対の要望を行ってまいります。ということでありますが、この問題については、本当に本腰を入れて運動をしていかないといけない問題だと思っております。自分自身も選挙の中で、断固反対の姿勢は貫きますということで選挙戦を戦ってまいりましたので、こちらについてはいささかも変更はございませんし、行政として、皆様方と一緒にこの問題については、一致団結をして運動をしてまいりたいと思っております。

そして、皆様方にも少しお願ひしたい点がございまして、特に生田地区において、このテーマについて関心が高いのは言うまでもありませんが、一色の中でも、正直、なかなか関心の高い、低いがあったりとか、また西尾市内においても、計画されている場所から離れば離れるほど関心が薄いというのも事実であります。ですが、このテーマについて、本当に建設を阻止するためには、やはり西尾市が一丸となってまとまって運動をしていくことが大事であります。行政といたしましても、そうした問題についての啓発とか、しっかりと情報を発信した上で、少しでも多くの市民の方々にご賛同いただいて、一緒に運動をしていけるような環境をつくってまいりたいのですが、市民の皆様方にも、できる限り知り

合いですとか市内の皆様方に、この問題について情報を共有して、西尾市として一致して運動ができるような形でお力をお借りできればと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

それでは、最後の6件目を、野田町内会長の伴様、お願ひいたします。

○野田町内会（伴会長）

野田町内会長の伴です。よろしくお願ひします。

テーマとしましては、津波対策の一環としての一色地区への命山建設ということで、意見としてあげてあります。

まずは、一色地区では、山がなく、ほとんどゼロメートル地帯です。最高地点は一色中学校グラウンドですね。その辺も海拔五、六メートルというところがございます。そういった中で、南海トラフ地震が発生した場合には、最大五、六メートルぐらいの津波が予測されていると思います。市の方針としては、今まで聞いている限りは、徒歩で一色地区の最高地点この一色の中心地点に避難すると前は言われてきました。そのような方針であるために、西尾南部地域の先ほどの県の予測ですけれども、予測死亡者数が数千人、実際には1,200人とかいう話でありますけれども、そういった多くの方が亡くなるということでやっております。

一色地区での建設計画のある、先ほども少し話が出ましたけれども、多機能型市営住宅の構想段階では1,000人程度の一時避難所のようなのですが、一次待避所と言うんですかね。本当に市民の命が第一と考えておられるならば、古川緑地左岸のレクリエーション施設の整備だけでなく、一色地区への命山の建設が必要だと思います。これは、地区住民の最大の願ひです。市は、できない理由ばかりを言っているのではなくて、避難可能収容人数、予算、工法、期間も含めて、どうしたらできるのかということをも真剣に考え、明確な情報を開示していただきたいと思ひます。

以上です。

○中村市長

ご意見、ありがとうございます。

6件目の津波対策についてですが、行政の仕事というのはたくさんあるのですが、市民の皆さんの生命と財産を守るというのが、一番基本的な仕事となります。そうした意味で、防災、減災というのは、自分自身が市長になったからではなく、前市政からも引き続いて市の中で重要性の高い課題だと認識しております。そのような中で、命山の建設についてのご意見をいただきました。こちらについて、市の方針といたしまして、一色地区の皆様方と、みずから避難することの重要さの徹底を図りつつも、要配慮者の避難方法ですとか、今ある既存の津波一時待避所の活用も視野に入れながら、命山の建設の必要性についても検証してまいりたいと考えております。

命山に関しましては、行政の方で一方的にこういったものがないんだろうというものをつくるわけではなくて、一色地区につくるのであれば、一色の皆様方のご意見をお聞きしながら、一緒になって進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

ちなみに、参考といたしまして、命山の建設予算として、先進市町の一例といたしまして、静岡県袋井市の例によりますと、300人収容可能な施設が約3億円で建設されているということですので、ご参考までに紹介をさせていただきたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

私ども一色地区から事前にお伝えした全ての意見や質問などに対しまして、ただいま回答がありました。

ここで、回答に対するご質問などをお受けいたします。時間で7時40分ぐらいまでを設定しておりますので、よろしくお願いいたします。

ご発言に当たっては挙手をお願いします。私が指名させていただきますので、町内会名とお名前をおっしゃって発言してください。

なお、限られた時間でありますので、要旨を簡潔にまとめ、ご発言いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。

それでは、最初に挙げられたヅイさん。

○生田町内会（ヅイ様）

生田地区のヅイです。

私は、二、三日前にちょうど80歳になりました。その中に大きな災害が、13号台風と伊勢湾台風、そして12月7日の昼間の地震と1月13日の三河大震災、これも経験しました。私は当時、小学2年生でした。それが結構頭の中にしっかりとこびりついております。

そして、地震が来て10分なり15分になったら逃げなさいと言われても、そのときの状態を言いますと、いつの間にか道路が1,000メートルぐらいにわたって私の体が入るぐらいの地割れで、下から吹き出て液状になっております。それが今、皆さんが何をしてくれるのですか。それをちょっと聞きたいのですけれども。

そして、私が前から希望しているのですけれども、ようやく今になって命山という言葉が出てきました。昔は、養鰻が非常に盛んでありましたが、今はもうなくて、ほとんど空き地であります。なぜそこに命山をもっと早くつくって欲しくないんだと。これを常々、私は思っております。

養鰻組合の跡地は、おそらく安く買えると思えます。そして、そこを築山にしてもらっておいて、常は子ども会でも、それから大人のグラウンドゴルフやゲートボールでもやれるような築山をつくっていただきたい。いざとなったら一色庁舎の跡にどうやって逃げるんですか。この前も防災講習で、東京の佐田先生が言われました。一色はどこまで逃げたらいいですかと言ったら、一色高校の3階ぐらいならいいですよと言われたんです。そうしたら、そこまでどうやって逃げるのですかと。それで、今、避難せよ、避難せよと言われるんですよ。よそへ逃げていくなら、近くであったほうがいいと思えます。

それから、最近いろいろと会社の人も協力していただいて、避難場所の設定が発表されております。果たして、夜中の1時、2時に地震が起きて、水害が来ますよといったときに、その建物の中へどうやって入るのですか。誰が鍵を開けてくれるのですか。そうすると、何も起こらないときは体裁のいい話ですけれども、いざ困ったときには、夜行っても入れません、上がれません。そのうちに水が来て流れましたよと。これでは、何もならないと思えます。だから、私はもうあと先が短いのですけれども、安心安全なまちをつくっていただけたなら、速やかに命山を私はつくっていただきたい。このように思っております。

よろしく申し上げます。

○司会（有馬会長）

お願いします。

○近藤危機管理局長

危機管理局長の近藤でございます。命山に対するご意見、ありがとうございます。

今、ご意見の中でおっしゃられたように、これまで平成26年度、平成27年3月に、西尾市避難計画というものが設定されております。その計画の中では、津波が来たときに避難する速度が1時間に3.6キロメートル、それだけ進めるだろうというようなことで計画ができておりました。しかしながら、今、ご指摘いただいたとおり、非常に液状化して、とてもその今言った1時間に3.6キロメートルというような距離を避難するというのはとても難しいのではないかとということで、平成28年度は、危機管理課のほうで津波避難シミュレーションというものがあつて検討しまして、その中でわかってきたことが、やはり今、ご指摘のように、一色地区の方々の避難場所というのが非常に長距離になって、なおかつ要支援配慮者の方々の津波一時待避所の指定も少ないというようなこともございまして、何らかの形で一時津波待避所的なものをつくらなければならないというようなことを考えていたときに、中村市長が命山というようなことを市長の公約の中で発言されておりますし、今、一生懸命、課の中で、どこに、どういった形をつくったらいいのかということ、先ほどの回答の中にも挙げましたように、皆様方とも一緒になって考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（有馬会長）

それでは、ただいまの事前質問に関連する質問のある方は、お願いしたいと思います。

それでは、一番前の帽子をかぶった方。

○一色4区（スギウ様）

一色4区のスギウと申します。

今、防災・災害のときにどうするかということで、せっかく一色も西尾市に合併しましたので、一色から、例えば寺津地区とか中畑地区の高台、ああいうところの学校のほうへ避難してもいいというような表明をしたら、かなりその成果が出されると思うので、その辺を地区の方に了承してもらって、市の場所として使える条件を出してほしいと思います。

もう1つ。トイレの問題ですけれども、ここの施設はどうか知らないけど、和式になっているところを早急に洋式のトイレに改修すべきと思います。市役所の中はどうか。和式ですか、洋式ですか。

全部洋式。役所が全部洋式だったら、市の施設、普通の公園、会場などもほとんど皆さん洋式のほうが、和式よりもやりいと思うのですよ。だから、早急に洋式に変更していただくように、そこら辺は費用を重点的に充ててお願いします。

○司会（有馬会長）

危機管理局長。

○近藤危機管理局長

一色の方々が寺津方面に避難するという、そういったご提案でございます。

先ほど申し上げました津波避難シミュレーションを危機管理課の中で議論している中で、第一前提としまして、河川に関しては津波の遡上がございます。また、震度7強というような被災を受けた場合、必ずそこを渡れるという保証がないものですから、そのときに橋を渡るような避難ルートを最初から設定しておきますと、そこで仮に渡れなかったときに遅れてしまう、津波に対して遅れてしまう危険性があるということから、我々の避難シミュレーションの中では、河川を渡らずに、とにかく北に向かっただけというような形で、今、我々が考えて

いるそのシミュレーションでは、そのような形で、なおかつ避難所も非常に遠くはなってしまうのですけれども、津波の河川の遡上ということがあり、その橋が確実に渡れるかということが確約できないと、そういった我々のほうからのご提案に対しては、橋を渡らないで行く、そういうルートをあくまでも設定しているのです。ただし、そこはご自分のご判断というか、実際に被害に遭ったときに、すぐ近くに橋が見えるような状況の中でご自分の判断で渡るというのは、それはやむを得ないことだというようには考えております。

それと、トイレの関係でございます。これも、災害があったときの想定でご答弁申し上げますが、避難所というのは小中学校に指定されているところが多くございます。小中学校のトイレの洋式化というのは順次進めておりまして、そういったところから、通常のトイレを使う場合には洋式。あるいは、簡易トイレですとか、そういったものについても座ってやれるようなトイレを考えておりますので、よろしく申し上げます。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

それでは、場内の時計、先ほど申しましたように、7時40分ということですので、あとお一人だけ。その後、自由意見をいたしたいと思います。

それでは、一番前の方。

○生田町内会（クダ様）

生田町内会のクダです。

産廃問題に対して伺いたいのですけれども、新聞発表によりますと、現在ある産廃場の跡地の問題で、この間、跡地会議がありまして、現状維持という回答が出たと思うのですが。現状維持ということは、そのままにするということですよ。これは、今生活している人間に対して失礼じゃないですか。あそこの中には、みんな入っていますから。この辺は皆さん、わかっている。それで、あの跡地を、強制執行でも何でもいいですから生田の町民に、一色としても、すぐにでも取り除いてほしいというのが希望ですけれども。今、その辺はどうなっているのですか。お伺いいたします。

○司会（有馬会長）

お願いします。

○永谷環境部長

環境部長の永谷と申します。

ご心配されているところは、ごもっともだと思っております。ただ、現時点において、やはり埋まっているものを全部撤去するとか、そういったことについては、専門家の方の意見であるとか、いろいろな方の意見を踏まえて検討してまいりました。全て取り除くということももちろん含めて検討してまいりましたけれども、現時点の内容で申し上げますと、やはり現状の形状を変更すべきではない。変更することで、二次被害といいますか、そういったことが考えられるということで、引き続き、やはり生活環境を守るということで、先日の会議でも、新たに監視を強化するという結論に至ったということでございます。

以上でございます。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

それでは、予定してございました7時40分近くになりますので、これからは自由意見交換に移っていきたいと思います。

皆様には、先ほどの地区取りまとめの意見や質問などにかかわらず、まちづくりに対する提案や意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言いただきたいと思ひます。

また、市長からお話のありました市政運営に関するご質問などがございましたら、ご発言ください。

先ほどと同じように、挙手にてお願ひします。なるべく大勢の方にご発言いただくということですので、質問は簡潔にお願ひしたいと思ひます。時間は8時10分をめぐりに終わりたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは、意見のある方は手を挙げてください。

真ん中のブルーの眼鏡をかけた方、お願ひします。

○一色三区（サイトウ様）

一色三区のサイトウと申します。よろしくお願ひします。

市長が今、市民が主役の市政に努めていきたいということで、大変ありがたいお話をいただきまして、P F Iについて見直しをするということも含めて、ぜひお願ひしたいと思ひます。特に旧一色町役場跡地の10階建ての市営住宅が本当に必要なのか。必要な戸数をつくれればよいと思ひますが、もし市営住宅が要るのなら、この支所の後につくらなければならないのかということ。これはぜひ耐震やって、旧一色町から、耐震をやったのに、たった五、六年で、もうだめだから壊すということにされたわけですよ。耐震の今まで計画された調査をしてきたと思ひますね。それがなぜ、たった六、七年で壊すことになるのか、それをきちんと町民にわかるように説明をしていただきたいということと、もう1つは、小学校のプールの廃止の問題ですね。これは、ぜひ再検討していただいて、学校の先生も知らないような、こんな計画がやられるのはいかんと思ひますね。だから、しっかり住民にも周知をしていただいて、どういう計画をするのか、そういうことをやはり、みんながわかるような形で周知して、計画をしていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○司会（有馬会長）

市長、お願ひします。

○中村市長

ご意見、ありがとうございました。

P F I事業の、例えば個々のプールですとか市営住宅について、要る、要らないというのが、私の意見を言ってしまうとひとり歩きしてしまうので、具体的にどうこうは申し上げられないのですが、ただ、進めていく中で私自身は、市民不在な形の進められ方をしているというところに危機感を持って市長選挙に出ました。ですので、今、進んでいる事業もある中で、一旦とめなければ、立ちどまって考え直すことはできないと思ひますので、まずはとめることを先決として第一と考えて、相手方と交渉をしてまいりたいと考えています。おっしゃるとおり、例えばやるのが正しいからといって、それが市民の皆さんが知らない中で進めていくのが、では果たして本当に市政運営として正しいかどうかというところは、しっかり行政として考えるべき話だと思ひしております。ですので、寺津のプールなどについても、そこにプールがいるかどうかとか、ほかの学校の方が、自分の学校のプールは使えなくて寺津に行くというのを、本当に理解をして納得してもらって市が方針を決めたかどうかというところは、もう1回考え直さないといけない問題であって、P F I全体については見直しですので、そのまま進めることもあれば、内容を変えることも出てくるのかなとは思ひますが、いずれにしても、一旦立ちどまって皆様方のご意見を聞いた上で、できる限り説明責任を果たして、合意形成というものを大事にしながら、時間が少しかかってでも丁寧な

進め方をしてまいりたいという考えでありますので、ご理解をいただければと思います。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

それでは、ご発言のある方は挙手にてお願いします。

つかさん。

○一色四区町内会（つか様）

4区町内会のつかです。市長として約1か月経つのですが、PFIの問題について、市長として公約されている中で、この2か月間でPFIの問題について、市長として市民の方に、こういうことをやりましたよという方策がありましたら、教えてください。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

就任して、これでちょうど、確かに1か月たちました。まず自分自身が就任させていただいて、これまで推進していた部署に対して、仮にこれを一旦凍結した場合にどう影響が出るかとかいうところの論点を出してもらって、それに対して整理をしたのがまず1つ。あとは、一色支所ですとか、実際に工事が進み始めている吉良の市民交流センターなどについて、現場を確認させていただいたのが1つです。

あとは、今後その見直しとかを進めていくに当たって、それをやっていくための組織というか、部署というものが必要になってまいります。そちらについて、設置に向けてのメンバーの募集ですとか人員の選定をしてきたというのが、現在の状況でありまして、正直、思った以上に時間がかかってしまった部分は否めないのかなと思っておりますが、そうした形で、できる限り選挙の公約で訴えたことをスムーズに進めていくための準備と申しますか、そういったことを、この3週間、4週間ですていたというところで、ご理解をいただきたいなと思います。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

挙手で、またお願いいたします。

それでは、女性の方で、真ん中の。

○千間町内会（いかり様）

千間地区のいかりといいます。よろしく申し上げます。

市長は、PFI事業の凍結、見直しと先ほどからおっしゃっておられますが、2点のことについて、質問したいと思います。

一色学びの館のことなんですけれども、今、改築工事に入るということで、9月から来年3月まで休館になると広報にしておりました。私はいつも図書館を利用しているのですが、リニューアルをとっても楽しみにしていたのですが、この改修工事も凍結するお考えなのでしょうか。もし凍結された場合は、いつから利用できるようになるのでしょうか。

もう1点は、先ほどからおっしゃられている一色支所のことなんですけれども、コンクリートの耐用年数がないということは私も重々承知しているのですが、今、現在、支所機能は公民館に移っておるんですけれども、市長ご自身の、空になった一色支所をどのように有効利用したいと現在お考えになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○司会（有馬会長）

市長、お願いします。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

正直、なかなか歯切れのいい回答ができない部分がございます、具体的にこのプロジェクトというか、どこの事業をとめて、どこはそのまま進めるかということについては、一旦、まずは議会に説明させていただいてというプロセスを踏もうと思っていますので、学びの館はどうするんだというところに対しては、ちょっと直接お答えできないのが申しわけないですが、ご理解いただきたいと思います。

では、いつまでなんだという話に当然なってくると思います。そちらについては、正直、いつまでに結論を出しますというのが決められるのが一番いいと思うのですが、逆にこれまでの進め方といたしまして、結論の時期を決めてしまったゆえに、そのスケジュールに縛られてしまったというように私は認識をしています。ですので、ケツを決めてしまうと、それまでにやらなければいけないのが先走ってしまって、そこにおいて丁寧な説明とか合意形成というのがおろそかになってしまう可能性があるとは私は考えています。ですので、できる限り速やかに早い時期に結論が出せるに越したことはないのですが、具体的にいつまでにしますというところについては、現段階で正直申し上げられないというのが答えになってしまいます。申しわけないです。

あと、一色支所につきましては、まずは本当に取り壊さなければならないのかどうかというところは、しっかりと検査をして、もしそういう結果であれば、市民の皆さんにデータをしっかりと公開して、こういう状況なのでということ、もし壊すにしても、そこはしっかりとやっていかなければならない話だと思えます。ですが、例えばもう1回検査をしてみて、まだまだ使えるぞとなった場合について、そこをどう活用しようかというところについては、特に一色の方々を中心として私はご意見を聞きたいというように思っています。自分がどうしたいということを書いてしまうと、先ほど言ったように、ひとり歩きしてしまうのであれですけども、例えば自分が聞いている話とかとすると、山本眞輔さんなど、一色出身の有名な方がいるので、そうした作品を展示するような美術館などに活用してはどうかとか、そういったご意見も聞いていますし、それは1つのやり方なのだと思います。特徴ある建物を今後も使いますよということになるのであれば、その辺をどう有効利用して市民の方々に愛される建物になるかについては、最初から結論ありきというよりは、皆様方にご相談をさせていただく中で決めていく話なのかなというところでありますので、ご理解をいただければと思います。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

それでは、挙手をお願いいたします。

それでは、一番右側の柄のシャツの方。

○吉良町荻原地区（カダ様）

こんばんは。住まいは吉良です。吉良町の荻原地区に住んでいますカダといいます。普段は、少年サッカーのほうで西尾市サッカー協会のほうで40年ほど活動しております。普段から、スポーツ課の皆様、もしくは公園緑地課には大変お世話になっておまして、こちらから無理を言ってグラウンド整備等もしていただいて、大変助かっております。

それに絡んでということもあります、今、平成29年度の主要事業を見させていただいて、子育てという欄があるんですが、スポーツ関係の事業が載っていない

いので寂しいなと思いましたが、市としてスポーツ関係にもう少し力を入れていただけるとありがたいかなというのを、まず1点、思いました。

この中において、保育園の芝生化、もしくは小学校の芝生化についてですが、県のサッカー協会の事業として、西尾市のサッカー協会も協力して、今、保育園の巡回指導という格好で、ボランティアで、各幼稚園、養護団体のところを回って、サッカー教室を指導させていただいています。行く先々できれいな芝生の剪定を見させていただいて、市のほうがしっかりとこういう整備をしていただいているというのを感じるとともに、保育園の先生、また保護者の方々の協力があって、初めてこういうことができるのかなというように思います。

県協会やほかの地域からこういった件に関しても、やはり年数がたつにつれて、劣化が激しくて、結局芝生を生やしたけれども、手でちぎれなくてやめていくところもたくさんありますよという話を聞いていますので、推し進める以上、やはり保護者だったり、どうしても助けがいるかと思いますが、市としてもたくさんバックアップしてもらって、こういうきれいな状態の芝生が続くといいのかなというように思います。また、こういう子育て、それからスポーツに関しても市のほうで協力していただいて、活動しやすい状況をつくっていただけるといいのかなと思います。

それに絡めてと言ってはおかしいのですが、総合グラウンドの改修工事が、昨年度末に行われました。バックネットを整備、それから門戸ですね。勝手に入れないように門を設置。中の芝生の整備をしていただいたのですが、僕は荻原地区なので荻原小学校のグラウンド、それから保育園の園庭等を見させていただいていますけれども、スプリンクラーが中にちゃんと整備されていて、水がない状態というのがないような格好で、とてもきれいに整備されています。ただ、総合グラウンド、せっかく芝生の改修工事をしていただいたのですが、スプリンクラーの工事というのが実際は入ってなくて、この5月にほとんど雨が降らなかったもので、せっかく生やしていただいたのが、もう多分7割方ぐらい枯れた状態になっています。無駄だったような気がします。とても残念な思いをしていますので、もちろん全て直していただく必要はないと思いますが、今後このような事業があったときに、この先の管理等も含めて、もう一度しっかり精査していただいて事業を進めていただけるといいかなと。PFIの話もそうですが、つくるのはいいと思います。いろいろなことを考えていただいて、いろいろな施設をつくっていくのはいいと思うのですが、それを管理ということについて、サッカー協会で動いてボランティアでやっている感覚で行くと、少しあとの管理ということについて、融通がきいていないというか、足りない部分があるのではないかな。ほかにも言うところのサッカーの関係で行けば、浄化センターのところにサッカー場があるのですが、そこに関してセンターに呼んでいただいたときにはきれいな芝生が揃っていましたが、その後、何らかの形でいい整備が入っているかどうかというのは、見ていただければ一目瞭然なんですけど、またそういう既成のものに関しても、新しくつくるのは結構ですし、PFIでいろいろなものをあげて皆さんが使いやすいものができればいいと思うのですが、その後の管理についても、考慮していただきたいというように思っております。

よろしく願いいたします。

○司会（有馬会長）

お願いいたします。

○青山子ども部長

子ども部長の青山でございます。

ただいま、保育園や幼稚園の園庭芝生化のことについてもご意見等をいただきまして、ありがとうございます。

園庭の芝生化は、全部の保育園幼稚園42園中33園は実施しております、この管理の面につきましては、ご心配いただきましたけれども、地元の、地域との協働ということで、父母の会の方々、地域の方で、ボランティアでやっていただいて、本当にきれいな状態で管理されておりますので、この状態を、環境を守って、管理をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○新實教育部次長

教育部次長の新實でございます。ご意見、ありがとうございます。

先ほど総合グラウンドの芝生の状態がよくないと。一度調べまして、しっかりと対応してまいりますので、よろしく申し上げます。

○渡邊建設部長

建設部の渡邊と申します。

先ほど総合グラウンドの芝生等、せっかく植えたのにとということでございましたが、気持ちよく使っていただきますように、先ほどの芝生等、スプリンクラーの設置とか、どういったことができるかわかりませんが、維持管理のほうもしっかりしてまいりますので、よろしく申し上げます。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

今度は真ん中の方。なるべく時間の関係上、簡潔に申し上げます。

○対米町内会（かり様）

対米のかりと申します。

一色を元気にするにはどうしたらいいかということのを非常に考えるのですけれども、やはり市長が言われましたように、市民の生命や財産を守る第一の行政の役割、ここにもう1回、目を向けていただきたいということで、繰り返しになりますけれども、津波地震対策、これをぜひお願いしたい。私、いろいろな機会に申し上げてきましたけれども、どうも、その場しのぎの返事をしていただいているように思えてなりません。例えば自助、公助、3つありましたかね。自助と公助と共助ですか。この共助と自助は、西尾市の職員の方が盛んに言われますね。公助が出てこないのですよ、公助が。端的に申し上げますと、避難訓練をするときにパニック状態で、どこに自分が避難したらいいのか、要は瞬時にわからないといかんわけですよ。瞬時にわからないとそんなものはくしゃくしゃになってしまいますよ。そのときの天候だとか、夜だとか昼だとか、寒いとか暑いとか、いろいろな状況が関係なくやってきます。そういうことを考えますと、この津波地震対策は、ぜひ第一に考えていただきたい。

その中で、1つだけお願いなんですけど、これは一色町の時代に本当ははっきりさせなければいけなかったかもわかりませんが、いろいろな事情で知ったのが合併後ぐらいの話ですので、お許しをいただきたいのですけれども、一色中学校は、今700人ぐらい生徒が見えると思います。これはもう一色の宝で、西尾の宝なんです。東日本大震災で炉心が溶融しました。想定外ということになりますね。そういうことでは困るわけです。一色の子どもたちを大変な目に遭わせたくないということで、今日回答が出なかったら、よくもんでいただきたい。

一色中学校は、埋立地の5メートルぐらいのところにあるのですけれども、今の状況は、1回避難訓練をやったけれども、避難するのに時間がかかり過ぎるからとどまるとこういう指導をされていると思っております。これは現場の先生に、少し前ですけれども、お聞きしました。そのときに、それも選択肢の1つですが、私が一番心配するのは、当時、一色町の時代につくったときに、多分、そのときに担当の職員は、施工業者がやったものをうのみにして印鑑を押しとるだけでは

なかったでしょうねということを私は言いたいのです。責任を持って回答をするには、これぐらいのことをやってもらっていないといけないわけです。

申し上げたいのは、耐震診断をやっておられると思いますけれども、耐震診断をやったときに、どういう状況で、本当にそれが信用できるのかということで、そうしますと、そこにとどまるというのも1つの選択肢で、私たちも認めていいと思うのですね。ですけれども、いろいろな想定がありますので、子どもたちを守るなら、もう1つ、2つの選択肢があってもいいのではないかと、こういうことを思います。

それで、市長が言われました支所のありようにも関係しますけれども、できたら集合住宅を、中学校の用地に一遍したらどうかと。理由がございます。一色の大体、真ん中です。そして、住民の目の届くようなところで学校教育を受けさせて、子どもたちが健やかに育つようにみんなで支援をしていくということもございまして、そして、あふれて防災拠点といいたまいますか、そういったこととしても十分すぎるぐらいの整備をいただきたい。

これに関連しまして、市長が言われましたように、これから交付金下がってきて、市の歳入も厳しくなってくる、財政運営が非常に厳しくなるという、こういう話を聞きまして、私、この間、西尾市役所の財政課に行きまして、西尾市の特定目的の基金はどうなっているんだと聞きまして、確か9億ぐらいしかないのですね。件数はもちろん何件かありましたけれども。

そこで、提案です。中学校を移転するまでは紆余曲折があって、時間がかかると思います。ですから、その前にあそこにとどまって、子どもたちが避難して十分かという1つの確認。それから、早い時期に移転をするための基金をつくって、今の交付金の中で特例の交付税をもらっておりますから、それを財源に充てて、早い時期に一色中学校を整備してほしいということをお願いしたいと思います。

要望です。

○司会（有馬会長）

それでは、よろしく願いいたします。

○近藤危機管理局長

それでは、まず一色中学校。その前に、行政の第一の使命でございまして、市民の生命と財産を守るというような、それをしっかりやってくれということは、ご要望について、しっかり承りました。

次に、一色中学校の校舎の関係でございまして、たまたま私、中学校のほうに出向いたときに、校長先生から、一色中学校は非常に、地盤がちょうど固いところの上であって、パイルがしっかり効いているということで、全く沈み込みがないというのか、沈下が全くないというようなことを校長先生からお伺いしております。したがって、校舎自体の、ちょうど固い地盤の上にしっかりパイプが通っているというようなことを私はそのときに感じておりますけれども、またその辺の詳しいところは教育委員会のほうで調べていただきたいと思いますが、まず一色中学校の避難の関係でございまして。先ほど私が津波避難シミュレーションというようなことで、市民のご自宅から避難する場合のシミュレーションというものは、今、我々危機管理課のほうで設定しておりますけれども、昼間の学校の、あるいは事業所に見えるときに災害に遭ったときの避難というのは、学校でも大勢の生徒を少ない先生が引率とするということになります。そうすると、その途中の避難路、そういったところを総合的に勘案して、今、学校のほうが個々に自分たちの避難をどうするかということは、今、決めております。今回、我々がそのシミュレーションを最近つくったものですから、それをもとに教育委員会と学校の方々と協議して、昼間起こったときに、どういった避難行動をとっていくか、そういうところを考えてまいりたいと考えております。

○司会（有馬会長）

お願いいたします。

○新實教育部次長

ご意見、ありがとうございます。

今、危機管理局長のほうから、パイルの構造につきましては、中学校の校長からしっかりしているということでございましたが、再度、教育委員会のほうといたしましては、調べて、間違いのないと思いますが、調べさせていただきたいと思います。

それから、一色中学校移転は大変大きな問題だと思っておりますので、これにつきましても検証をしてまいりたいと考えております。

よろしくお願いいたします。

○司会（有馬会長）

ありがとうございます。

当初、8時10分をめぐるとのことなんですけれども、時間の都合もありますので、あと1人、お願いします。

勉さん。

○生田町内会（勉様）

勉でございます。私、少し離れたところから、今回、全国初の西尾市のPFI事業を拝見いたしております。したがって、客観的に見られるようになったかなと平に感じておりますが、簡潔に申しますと、今回の事業は市民本位の事業ではなくて、業者のみで進んでいるなど、そういう感じがますますしております。そういった中で、新しく中村市長、この事業を一旦立ちどまって見直しをしたいと、こう言うておられる。非常に期待しているところでございます。

ところが、新聞等を見ておられますと、この事業、西尾市の議会の行政、粛々と進めると、このような言葉が、雰囲気伝わっております。私は、やはりここで立ちどまって、本当に市民のために、市民本位の事業であるかどうか、業者本位の事業であるか、この辺のところを再度見直す必要があると思っております。市民の大事な税金を使って行う事業でございます。30年間、15年、30年にわたって大変多くのお金を、ローンで買うようなものでございますので、今一度、ここで立ちどまって見直す必要があると思っております。

そういった中で1点、この事業を進めてきた行政の部局、今は資産経営戦略局となっております。それで、局長は部長級でありますね。部長級であります。その点、この事業を粛々として進めるために、その上に資産経営戦略監というのが置いてある。県などへ行きますとありますが、今まで西尾がやっていて、監というのは、私、初めて聞いたような気がしますが、それだけこの事業をバックアップしてしっかり進めよう、こういうことではあります。その監というのは、どうですか。この際やめて、立ちどまって、冷静に考えていただきたいと思います。

以上です。

○司会（有馬会長）

それでは、お願いいたします。

○増山副市長

失礼いたします。

今、高須一弘さんから資産経営戦略監という話が出ましたが、私が、その資産経営戦略監を拝命しております増山と申します。

前の市長が、合併後のまちづくりのために新しい手法を導入して取り組んできた事業でございますが、選挙の結果、中村市長が誕生され、その新市長のお考えは、一旦凍結をして全面的に事業を見直すというマニフェストで当選された市長でありますので、間もなく西尾市議会のほうにも、その新市長のお考えを、議員の皆様へ報告、説明をされる段取りになっております。大きく方向は転換をされるものと私も認識をしているところでございますので、皆様の大きな期待を新市長が十分認識されて進めていかれるものと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○司会（有馬会長）

ありがとうございました。

予定の時間を若干過ぎましたけれども、まだご意見を言いたい方はたくさんあると思いますけれども、各校区や町内会で市民協働ガイドというのを催しておりますので、ぜひその機会で大いに発言していただきたいと思っております。

予定の時刻となりましたので、進行にご協力いただき、まことにありがとうございました。それでは、事務局に返還させていただきますので、よろしく願いいたします。

○細田秘書課長

有馬様、ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○中村市長

皆様、本日は2時間近くにもわたりまして市政懇談会にご出席いただきまして、ありがとうございました。

正直、いただいたご質問の中で、しっかり答えられた部分と、なかなか歯切れが悪いお答えしかできなかった部分がありますことをご了承いただければと思います。ただ、自分自身、これから市民の皆様としっかりと正面で向き合いながら、一緒に西尾市のことを考えていきたいと考えております。市政懇談会は、今のところ、2年に一度、各小学校区でということになりますが、先ほどご案内がありましたように、市民協働ガイドですとか、その他市民の声とか、ご意見を聞かせていただける方法というのは幾つかあります。それと、自分自身もできる限り現場のほうに直接出向いて、皆様方とたくさんお話をさせていただく中で、日常のお困り事ですとか、市政への提言なども遠慮なくいただいて、地域に溶け込む市長として頑張りたいと思っておりますので、今後とも市政各般にわたりましてご理解とご協力をお願いさせていただきます。最後のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

○細田秘書課長

それでは、最後に、事務局から3点ご連絡いたします。

1点目は、本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記具を出口の回収箱に入れいただきますよう、お願いします。

2点目でございますが、今、市長の挨拶にありましたように、市では、皆様の声を市政運営に反映させるために、市民の声の制度を設けております。市政に対してお気づきのことがありましたら、市民の声までご意見等をお寄せください。

3点目です。これも今、市長の挨拶にございましたけれども、市では、さまざまな機会を通じて、市民協働ガイドを行っております。これは、市職員が地域に

出向き、市の事業などをわかりやすい言葉でお話しさせていただいております。地域の声をお聞きするものでございます。詳しくは、お配りいたしました案内チラシをごらんいただき、会合等の際には、ぜひご利用ください。

私からは以上でございますが、ほかにもう1点、上下水道部からお願いがございますので、お聞きください。

○市川上下水道部長

上下水道部長の市川でございます。上下水道部から、節水についてのお願いをさせていただきます。

矢作川水系では、5月以降、降雨が例年に比べ非常に少なく、西尾市の水がめであります矢作ダムの貯水量が大変少なくなっております。そのため、7月25日から第一次節水、そして8月1日から第二次節水を実施しており、現在のぼり旗などで、節水のPRや広報活動を行うとともに、ホームページにも掲載し、市民の皆様をお願いしているところでございます。今後も、降雨が少ない場合には、さらに第三次節水に強化される可能性もあります。市民の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、節水にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

○細田秘書課長

連絡事項は以上でございます。

それでは、これをもちまして、「市長と語る市政懇談会」一色地区を閉会いたします。

交通安全にご留意いただき、お気をつけてお帰りください。

本日は、どうもありがとうございました。